

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500245		
法人名	笠岡市		
事業所名	笠岡市炉端の家		
所在地	岡山県笠岡市吉浜1399		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開所から15年という節目を迎えました。開所以来、入居されたお年寄りが今年他界されました。この月日をここ炉端の家で過ごされた事はグループホームケアに新たな可能性を見出したように思います。終の棲家の言葉通り過ごされた日々は私達に大切な事を気付かせて頂く出来事でした。今現在働いている職員の力だけではなく、過去働かれていた職員の様々な取り組みがつながり、そしてターミナルケアへと結ばれた一つの形だと感じている。
 ・「尊厳」という言葉をよく目にしていたが、その言葉の意味を深く感じる事の出来たお年寄りのご家族との出逢いがあった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の担当者も「自分が知る限りにおいて、今のような形で市町村等の行政が事業主体となるグループホームは無い」という、非常にユニークで注目度も高い「炉端の家」も、間もなく大きな変革を迫られていると聞いた。どのような展開が見られるか、今後の成り行きを注視しなければならないが、この14年という長い歳月を通して築き上げてこられた数々の実績は少々のことでは揺らぐことはないだろう。管理者も言うように当初から理念目指して一杯取り組んできた取り組みも継続しなければならない。今後も、利用者・家族・地域の人々・このホームを育ててきた人や応援してきた人達の多くの熱い思いが底力を発揮して支えてくれるに違いない。どのような場面においても、「つながる事」を大切にできた「炉端の家」が「炉端の家らしく」続いて欲しいと願っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「認知症という病気があっても家庭的な環境の中で自信を取り戻し、人間らしくゆったり穏やかに一人ひとりの生活を大切に、その人らしさを引き出そう」を掲げ、職員の目につく所に掲示している。	ホーム開設当初から大切にしている理念を、職員は常に念頭に置く様にしている。理念を軸に、例えば「つながりを大切に」という目標を設定し、日頃のケアにつないでいる。「目標を達成できたか」という評価も常にし合うようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くにある中学校のボランティア部が部活動を兼ね、施設内の手伝いをしてきている。また、町内の祭りには子供神輿が立ち寄ってくれる。	ボランティアの中学生が利用者の居室の窓や床の掃除をしてくれたり、お祭りの神輿訪問の時は子供達が部屋の中まで入ってくれ、Mさんが子供たちの顔を見て素敵な笑顔になる等、親密な交流が見られて微笑ましい。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に取り組みとしては行っていないが、ボランティア等の要望があれば行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族・市職員・地域の方々の参加、協力で開催し、秋祭りへ地域の方々に参加をして頂いた。	昨年度の外部評価時の提案を受けて、H21年度目標達成計画の一項目として取り組んできた。役員の交代などもあり、規定通りの運営推進会議の実施には至っていないが、今後もホームの運営やサービス向上に役立てられる会運営に努力していきたいとしている。	運営推進会議の意義や必要性は十分理解しているが、開催方法や開催主体を狭義に捉えすぎていた為か、このホームにとって有効な会と言える状況ではないと思うので、今後工夫を重ねて欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	笠岡市の施設という事もあり、常に連絡を取り合い、施設の事やケアサービスに関して報告を行い、様々な情報・意見を頂いている。	市が事業主体者であるという、他のグループホームと異なる関係にあり、今日の訪問においても管理者と共に一日対応してもらった。管理者は施設・設備改修等、あらゆる相談に快く応じてくれるので感謝している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日ごろのケアに関して、ミーティングで本人にとって苦痛を感じさせていないか、安全で有るかなどを話し合い、職員間の意識の統一を図っている。	職員ミーティングや連絡ノートの記録の中から、利用者一人ひとり、その時の心の内を知る為の丁寧な話し合いが読み取れ、身体はもちろん心の縛りにも配慮している日常がよく伺われる。拘束をしないで「安全」を確保する為の最大限の工夫と努力が見られる素晴らしいホームである。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にケアの見直しをし、高く意識をもって関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会がなかった。研修や学ぶ機会を設け、しっかりとした対応をしなければならないと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族へはなるべくわかりやすい言葉を使い、ゆっくりと時間をとり説明している。契約時などは必ず市職員と共に説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時必ずスタッフが最近の様子を話したり、電話連絡時に話しをする機会に御意見を伺ったりしている。また、ケアプランに家族の要望欄を設けており、説明時には御意見御要望をお聞きしている。	日頃から家族とは色々な方法でコミュニケーションを図っており、「家族への連絡・報告」の記録は、お互いの言葉のやり取りがリアルに記録され、家族の想いがよく伝わってくる。他のホームではあまり見られない程の貴重な記録である。	年2回「家族会」を実施し続け、家族もよく協力している。家族は「このホームのケアの在り方に心から感謝してやまない」という意見が多くみられる。しかし、「このホームの問題点について、職員と共に考えていく為の何らかの工夫」を期待している。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにおいて、しっかりと職員同士の意見交換を行うようにしている。また、職員からの相談にはいつでも耳を傾けている。	職員ミーティングではケアカンファレンスを始めとしてあらゆる話し合いがなされている状況が記録からよく分かる。連絡ノート上でもそれぞれの意見が記入される等、各職員の意見交換が十分出来るよう時間をたっぷり取ったり、システム作りをしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ同士が思っていることを言い合え、想いを形にしていけるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々で研修に行き刺激を受けたり、取り組みの発表をさせてもらっている。その事により、仕事への意欲と自信につながっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みとしては行っていないが、同グループのグループホーム間や研修等で関わりを持った施設との訪問等は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々のスタッフが個性と専門性を活かし、いつでも本人の声を聞けるように本人らしい生活づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後に関わらず、家族等との何気ない会話から相談、要望に至るまで耳を傾け、少しずつ関係をつくっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングにおいて、「その時」必要としているケアをしっかりと職員同士でご家族のご意見を交えて話し合っている。また、行っていくケア等をご相談し、意見交換を行うようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ食卓を囲みながら、一緒に泣いたり、笑ったりと同じ時間を共有している。時には職員が励まされたりし、支えて頂きながら共に生活している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族との時間を大切にしている。また、些細な事でもお伝えし、ご家族のご意見をお聞きし、それを最優先に考え、ケアに反映している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に面会に来ていただいたり、生まれ育った家に遊びに行ったり、御本人が大切に思っている人や場所を職員も大切に思い、関わっている。	馴染みの人や場との関係を保つ為に外出しにくい人に対しては、その人の家族から昔の話を聞き話題に乗せてみたり、送ってくれた写真を見ながら関係が続くよう支援の工夫をしている。ソファベッドで一夜を共に過ごす等、家族の協力の力も大きい。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度化しており、利用者同士の関わりがなくなっている。その為、職員が間に入ったりし、フォローが欠かせない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	つながりを大切にしているので、断ち切るという事はせず、関わりを大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングにおいてスタッフ同士が本人の希望や意向を話し合っている。また、何年も生活しておられる方が多いので生活歴を基に考えたりしている。	言葉が十分出ない利用者に対しても職員はその人に合った問いかけをして表情を探り、本人の意向をしっかりと確認している。また以前から「生活歴」の記録を家族の協力も得て作成し、参考にしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能であれば、ご家族等にご本人の生活歴等を聞かせてもらい、日々の生活に役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で小さな変化や声を拾い上げ、職員が気づいたり、感じた事を職員同士で話し合い、すぐに対応している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には日常生活の中での何気ない言葉にも耳を傾けて、お気持ちを伺うように努めている。ご家族等には面会時や電話連絡の際に希望や意見をお聞きし、計画を作成している。	ケアプランのメンタルケアの欄に、本人の「私の話を聞いて」、家族の「ために、やさしい声かけを。この良い雰囲気を続けて…」等、それぞれの言葉での記述があり、その人なりの想いがよく伝わってくる。日頃から職員がしっかり耳を傾けていることがプランにつながっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は細かく記入し、ちょっとした変化にも気付けるようにしている。また、ミーティングにおいてしっかりと話し合いを持つ事で情報の共有がなされている。その結果、介護計画に活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の把握や広い視野を持つようにし、固執しないようにしている。また、その時々状態に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の中学生の手伝い、地元の祭りを通してふれ合う事により、暮らしを楽しむ事が出来るよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携を取り、受診が必要な時にはご家族へ連絡をしている。また、希望する病院があれば受診していただけるようにし、適切な医療を受けられるようにしている。	きのこエスポール病院の院長が主治医。往診でも気軽に優しく声をかけてくれるので本人・家族共喜んでいる。他の診療科の受診は院長の指示に従って職員1～2名付き添う。家族が同行することもある。	利用者の重度化に伴い受診も増えてくる。職員と家族が同行するのが最も理想的であるに違いないが、厳しい現実にも目を向けなければならない。これから入居する利用者に対し「原則として主治医以外の受診は家族の役割とする」等、検討してみてもどうか。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師と連携を取り、状態報告をしている。また、状態が悪くなった時には毎日連絡を取り合い、指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には情報提供書とともに職員が主治医や病院関係者と情報交換を行い、状態の把握に努め、退院してからの対応等も相談している。必要な場合は当事業所の主治医と直接医師同士で話しをして頂き、今後の事を含めての話しをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての同意書を基にご家族等と話し合い、方針を決定している。その同意書内に当事業所での対応などを書いている。また、その時々で話しをしている。	ある人の人生の最期のステージを共に過ごした記録・DVD・家族とのメールのやり取りの一部を見せてもらった。「短い、しかし濃密で凝縮したような時間・場所に、ここを、そして私達を選んでもらえて光栄」と涙する職員に、家族の立場で見る私達は本当に頭の下がる思いがした。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加したり、マニュアル等の確認を各職員が行っている。また、ミーティングで確認し合っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行い、マニュアルも作成している。全職員が確認、実行できるようにしている。	7月の避難訓練では、設置されているスプリンクラーや火災報知機・消火器その他使い方等学習した。秋には全員ではないが利用者も参加して避難訓練を実施した。運営推進会議でも地域の協力を得る為に度々取り上げたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格の違いを把握し、その人に合わせた対応や声掛けをしている。	ある職員から「さんの生と死に真剣に向き合い、その思いを尊重して共に過ごせた事で、自分自身ある壁を乗り越えられた」という話を聞いた。「炉端の家」の職員は仕事を域を超えて全身全霊を傾けて一人ひとりの「尊厳」を守ろうとしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を口にされる事が少なくなっている。職員がご本人の意思を優先に考え、希望を少しでも表現して下さるように声掛けの仕方を工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか自分で希望を言える身体状況ではなくなっているため、今までのその方の生活を大切にしながら日々を過ごしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居され、長い期間利用している方が多く、好みを職員が把握している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化により、一緒に準備・片付けをするという事は難しい。食事形態も異なるが、その方が食べやすくおいしいと感じて頂けるように好みを把握しながら食事を提供している。	このホームにいつ来ても食欲をそそる出汁や煮物のいいにおいが私達を迎えてくれる。職員はその人に合わせた調理・食べ方・時間・場所を工夫して、それぞれに美味しく食べてもらっている。何よりも、本人の食欲が進むことを大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、食事形態・量も考え、対応している。また、食事の量が低下されている方には代替えとして、好むものを提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行っていない。ナイトケア時、口腔ケアを行うようにしている。また、その時々で必要に応じても行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況が低下していくなかでも、状態がよい時や本人の訴えがある時にはトイレに座っての排泄を大切にしている。	開設から15年というホームであるが、各居室にトイレを設置しており、以前から本人・家族の提案も取り入れながら職員のあらゆる知恵と市の協力を得て補助具の取り付け等改修を重ねている。こういった試みは他ホームにも紹介したい程だ。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの身体的な状態に応じて工夫しているが、まだまだ足りない部分が多く知識を身につけ、対応していかないといけないと考えている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望には応じるようにしているが、言葉にされる方が少なくなっている。さしあたって、決めごとなどはないが、ゆっくりとリラックスして頂けるように努め、個々に身体状態に合わせて入浴法を変えている。	時の経過と共に利用者の身体状況も年々変化し、浴室の改装も徐々に必要となり、市の英断で実現した。数々の工夫や改善が見られ、お陰で職員2人介助の入浴が楽になったり、利用者がより快適に入浴を楽しめるようになったと聞いた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体機能が低下してきており、ずっと座って過ごすという事が難しくなっている。職員はその方の状態に合わせて、その時々で横になり休んでもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬を服用しておられるかファイルで確認できるようにしている。特に薬の内容が変わった時などは気にかけて状態をみている。また、協力病院の看護師に状態を報告したり、対応方法を相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の進行、身体機能の低下等があるが、趣味、嗜好を大切に、その人らしさをうしなわない生活を提供できるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら希望を表現することが難しくなってきたが、個々の状態やふともらした言葉を大切に、家族の協力のもと嫁ぎ先や実家・お墓参り等出掛けている。又地域の祭り・運動会等の行事にも参加し、地域の方々と少しでも触れあえるようにしている。	「その人の想いや体調を尊重した外出を」という目標達成計画に取り組み、人それぞれが満足できる、短時間でも中身と内容の濃いものにしていく。今日の午後、男性職員と2人の「行きたい人」がにっこり笑顔を残して買物に出かけた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いつでも個人のお金を使えるようにしているが、認知症が進行している為、職員で管理をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけたたり、手紙を書くことは難しくなっているが名前だけでも書いて頂いたり、職員がかわって代筆も行っている。また、出掛けた時の様子を手紙に書き、写真もまとめて同封している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節、イベントを感じてもらえるようにインテリアし、職員同士で話し合いお年寄りに優しい環境作りを心がけ、温かみのある空間を目指している。	訪問の度にじっくり話し込んできた。さすがに変化は感じられるが「私はこの高い天井が好き。気持ちいいでしょう」等、やはりうちの住人の顔で「この居心地のよさを教えてくれる。職員は大工事は市にお願いし、出来る工夫は自分達の手で少しでも過ごしやすい空間づくりをしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体機能の低下に伴い居間で過ごす時間が少なくなってきたが、個々の体調や状況に合わせて過ごしてもらい、お年寄り同士の関係を築いてもらえるよう職員が間に入り過ぎて頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の家具は出来るだけ使用していた馴染みの物をご家族にお願いしている。又、本人の好む色や写真、家族からの手紙等を飾ったり居心地の良い空間となるよう工夫している。	10年以上もの住居ともなっていて、もうすっかりその人らしい部屋になっている所が多いが、職員は常に一人ひとりの心身の状態をじっくりと見て、ホームセンターに通って改良を試みたりしながら、安全・安心・心地良い居室への工夫を重ねている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、身体状態・体系に合わせて、手すりを設置している。また、車椅子使用されている方が多く、体系や状態に合わせたものを使って頂いている。		